

授業概要

子どもの表現に関わる資質・能力をバランスよく育成させるためには、造形遊びや工作の活動、絵や立体の中で、子どもが納得するまでつくらせていく。特に再構成（つくり、つくりかえ、つくる）を満足のいくまで持たせる学習活動が必要であろう。このことは造形指導をする指導者にも、幅広い経験と深い学びが必要であると考えられる。習得・活用・探究という学びの過程の中で働かせることを通じて、より質の高い深い学びにつなげられる授業づくりを目指し、題材研究を進めていく。

本講義では造形活動の指導・実践に必要な材料・用具の取り扱いと、学習指導要領の「内容の取扱いと指導上の配慮事項」についての理解を深める。また、幼児・児童期における発達段階の作品に触れ、幅広い造形の基礎技能の習得を図ることをねらいとして指導する。ICTを活用した造形表現の取り組みについても理解を深める。

授業計画

第1回	授業ガイダンス（子どもの遊びと造形表現、保幼小の接続と連携）
第2回	子どもの絵の発達段階と様々な表現（観察画・創造画・水彩画：遠近法の活用）
第3回	題材研究1：ドリッピング（垂らし絵）とパチック（はじき絵）
第4回	題材研究2：スパッタリング：型を用いたグラデーションの基本（色相・明度・彩度について）
第5回	題材研究2：スパッタリング：型を用いたグラデーションの応用（明暗の調子と色の濃淡）
第6回	題材研究3：紙工作 立体構成ーからくりBOX（自分の見方や感じ方を広げ深める）
第7回	題材研究4：紙工作 環境構成ー窓辺の飾り（材料と関わりながら、構想を立ち上げる）
第8回	題材研究5：空の彫刻ー風作りと歴史ー（地域の伝統行事について見つめる）
第9回	題材研究5：空の彫刻ー風の揚げ方と安全指導ー（材料や場所の特徴をいかして工夫する）
第10回	題材研究6：芯材を使った粘土制作① 紙粘土の特性と種類
第11回	題材研究6：芯材を使った粘土制作② 量塊と動勢
第12回	題材研究6：芯材を使った粘土制作③ 彩色による効果と仕上げ（ニス）
第13回	地域の美術館の活用について（デジタル教材と鑑賞教育）、表現及び鑑賞学習の指導と評価
第14回	ICTを活用したデジタル絵本（アナログ絵本とデジタルの応用）
第15回	ICTを活用したクレイアニメーション（粘土による造形表現）
第16回	まとめ（デジタルカメラで撮影した自身の作品を使っての鑑賞学習）

※学外授業及び学外講師を招聘することもあり得る。

到達目標

- ・図画工作科の学習環境とその運営、施設・設備に関する環境の配慮について理解することができる。
- ・表現及び鑑賞の学習指導と評価について理解を深め、造形表現に関する知識や基礎技能の習得を図ることができる。
- ・造形活動を通して、様々な材料用具の正しい扱い方と安全指導を身につけることができる。

履修上の注意

- ・造形活動で用いられる様々な材料用具（工作用紙・紙粘土・絵の具等）は、各自が準備することになる。詳細は授業内で随時伝える。
- ・GIGA スクール構想に対応するため、ノート PC/タブレット/クロームブックのどれかひとつは鑑賞学習で活用する予定である。
- ・学外活動又は外部講師による講演聴講の場合も予定される。

予習・復習

学生自身が造形活動を楽しみ、豊かな感性を育てることが求められる。そのための準備・努力を惜しまないこと。主体的かつ授業外においても、造形活動に取り組むことを期待する。

評価方法

個人・共同製作における持ち物の準備（20%）。作品の期限内における提出の有無と内容（40%）。学習態度、協調性（40%）

テキスト

教科書『ICTを活用した小学校デジタル教材アイデア66』森本昭宏・浦野弘〔編著〕ジダイ社〔出版〕
〔出版年〕2022年12月 ISBN 978-4-909124-56-2 C3037

参考書『保育・教育のための実践事例で理解するわかりやすい「表現」』梅澤 実・森本昭宏〔編著〕創成社〔出版〕ISBN：978-4-7944-8099-6（2年秋期「保育内容の研究ー造形Ⅰ」の左記教科書も活用する予定）